

会員からの「桜便り」⇔往復書簡

●皆さんから「桜便り」が届いて！

窓の外を眺めるとツツジやハナミズキ、フジの花が見頃を迎えています。3月中下旬は新型コロナ禍の影響で「桜」をゆっくりと見ることができなかつた方々も多かったのではないのでしょうか。先日、関西浦高会の「Web お花見会」をきっかけに同期の皆さんからも次々と「桜便り」が寄せられています。そんな便りを往復書簡でご紹介してまいります。最初は若林修さんの嘆きから始まりました。◇ ◇

「桜フリークおじさんの嘆き」若林 修さん

三春滝桜と共に日本5大桜の一つの石戸蒲桜（北本市）は、他の桜同様に今年は開花が早く、自粛騒ぎの前に満開になり、近場でもあることから早速愛でに行つたのですが、昨年の台風で幹から折れてしまい、悲惨な姿で出迎えてくれました。山高神代桜は何年も前から痛々しい姿でしたが、手厚い看護を受けて若干復活してきたとはいえ先は分かりません。狩宿の下馬桜も最盛期の半分くらいの樹勢で咲いています。自分や桜が逝ってしまう前に愛でておかないと・です。5大桜の根尾谷の薄墨桜と三春滝桜はまだ樹勢があり見事に咲き誇っていますので、皆さんも是非愛でに訪れてみてください。根尾谷の薄墨桜は、私が今まで見た桜の中でも一番風格があり見事な桜であると思います。今年は各地の花見の名所が立ち入り禁止となりましたので、その代わりにと言うと横暴ですが、私が勝手に選んだ名桜を掲載します。



根尾谷の薄墨桜(岐阜本巣)



醍醐桜(岡山真庭)



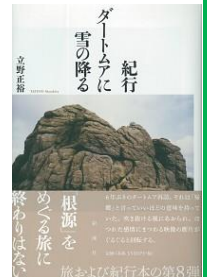
紫雲出山(香川三豊)



小岩井農場の1本桜(岩手雫石)

「返信書簡①・思い出」藤江昌嗣さん

若林さん、見事な桜の写真ですね。立野正裕(明治大名誉教授、イギリス文学者、遠野市出身)が近著『紀行 ダートムアに雪の降る』(彩流社、2020)で、「冷厳なその事実を沈黙のうちに突きつけるのが写真なのだ」と記されていましたが、今年の桜はそのような面ももつのかなと思われました。小岩井農場の一本桜(岩手雫石)は、岩手大学時代に家族で見に行きました。未だ、朝ドラでも扱われていないときでしたが、岩手山を背景に写真がとれる綺麗な桜でした。また、三春の滝桜は、私の父方が郡山出身であったことから、30年位前に見に行ったことがあります。見事な桜でした。この桜が見られない今年は、大変残念ですね。根尾谷の薄墨桜(岐阜本巣)というのは知りませんでした。また、紫雲出山(香川三豊)も知りませんでした。ただ、地名としての本巣は、大学のクラスメイトが出身者で、彼もこの桜を毎年見ていたのです。三豊は確か、故大平正芳首相の出身地で、彼の母校観音寺一高の近くにその記念館があったのですが、確か山の上の三豊の道の駅に移設されたと聞きました。



「返信書簡②」若林さん：私が桜の開花を追う旅を始めてから35年以上経ちましたが、桜の樹の諸行無常を意識したのは、京都の円山公園の枝垂れ桜の移ろいを目の当たりにしたことからです。毎年の旅の始まりは京都からが多く、子供が小さい頃からこの枝垂れ桜と一緒に愛でていたのですが、当初は花を一杯につけていたのに、年々花の数が減り、いまにも枯れてしまいそうな悲惨な姿を見て、成長する子と対比して衰え行く親の姿に重ね合わせ、桜にもいずれ終末が来るのだと気が付かされました。そんな時に見た山高神代桜は、円山公園の枝垂れ桜以上に、既に枯れているかのような姿であったので、見事に咲いているうちに、日本各地の多くの名桜を見ておきたいという思いを強くしました。良い意味で刹那的に、「今を大事」に生きて、日本的に桜の移ろいと共に過ごしていきたいと思ひます。

続いて、長野県東御市に在住の齋藤亨さんからの「桜と信州の山々」でした。

「東御市中央公園の桜」 齋藤 亨さん

こちらは今桜が満開です。2,3日前に家から歩いて500mほどのところの東御市中央公園の桜を見てきました。浅間連山や蓼科山は前日降った雨が山の上では雪になっていて、山の上は白くなって桜とのコントラストが綺麗でした。



「返信書簡①」 藤江昌嗣さん

信州も桜が綺麗ですね。東御も綺麗ですし。空と山とのコントラストも良いですね。流石です。また、御邪魔したいですね。COVID-19は制約も多いですか？ 温泉とかは変わりはないですか？

「返信書簡②」 若林 修さん

齋藤さん、東御にお住まいなのですね。うらやましい。佐久・東御・上田は好きで良く行きます。東御市中央公園にも犬を散歩させに行きますが、写真の芝生広場は確かペット侵入禁止だったような。

「京都からの桜頼り」 藤江昌嗣さん

京都在住の大学ゼミの先輩からの今年の桜便りがありましたので、転送します。中学そして高校の修学旅行でも訪れた方も少なくないかもしれません。

<追伸>

今春、京都にお越しになれた皆様のために、桜の写真を数枚、送付させていただきます。メンバーの皆様で、シェアしていただければ、幸いです。
（撮影場所：京都御所、旧京都府庁中庭、岡崎の疏水界限、知恩院三門、八坂神社、丸山公園）M.S.

「京都からの桜便り（写真）」



こうして居ながらにして各地の「桜」を愛でることができるというのは幸せですね。

ただ、浦高に入学した生徒たちが新入生歓迎10キロマラソンも中止、入学式も影響があったそうです。何よりもまだクラスメイトと会えておらず、オンラインで担任と少し言葉を交わしたのみらしいと聞くと心が痛みます。

最後は山本勝郎さんからの「高遠城址公園の桜」です。

「高遠城址公園の桜」山本勝郎さん

両親が信州の高遠出身のため、高遠城址公園の桜はよく見に行きます。俗に「天下第一の桜」と呼ばれているらしいですね。今年はコロナのため行けませんでした。来年また実家の草むしりのついでに見に行きたいと思います。個人的には夜桜と遠くに中央アルプスが見えるところが好きですね。それではタカトオコヒガンザクラをご覧ください。



「返信書簡①」藤江昌嗣さん

素敵な、高遠城址公園の桜の写真、有難うございます。本当に素敵ですね。お気に入りの写真も納得できます。高遠は依然、桜井に咲いていない季節に訪問したことがあります。桜の頃は見事であろうと想像したことを思い起こします。

「返信書簡③」藤江昌嗣さん

ソメイヨシノより赤いとのこと、そのエピソードも含め、将来、開花の時期に是非行ってみたいですね。実は、以前行ったのは、2012年かと思えます。ゼミの卒業生が信濃毎日新聞の記者で、伊那支社に赴任していた時のように思います。

弘前や会津、角館、盛岡城址、北上などとも異なる雰囲気がありますね。明治初めには日本には2万を超える藩がありましたので、それぞれの地に地域の人を支え、地域に生きてきた桜があるのですね。

「返信書簡②」山本勝郎さん：高遠のコヒガン桜はソメイヨシノより色が濃く（赤く）、戦国時代に織田に責められて落城した際に流された武田方の血を吸ったせいだという言い伝えがあります。ちょっと怖い話ですが、花はきれいですし遠くに雪をかぶった中央アルプスが見え絶景です。開花時期は大体4月15日前後かな？是非機会を見つけてまた行ってみてください。

「返信書簡④」山本勝郎さん：信濃毎日新聞は、あちらのコンビニに朝日、読売と肩を並べて売られています。毎日や産経はなくても信濃毎日はあるというくらいです。ところで、高遠の基礎知識ご存じですか？

- ①徳川家光のころの高遠藩主（保科正之）は、家光の異母弟だった。
- ②保科正之は幼少期浦和（！）にいた。お江（ごう）に殺されそうになり浦和のお寺にかくまわれていたんですね。
- ③保科正之が会津に転封された縁で会津にも「高遠そば」がある…大勢の人が会津に連れていかれたみたい。
- ④その他、新宿御苑は高遠藩（内藤氏）の屋敷跡だった。だから地名は内藤新宿。

どうでもいいことですが、ゼミの教え子の方に今度訊いてみたら如何でしょうか？これを縁に高遠に少しでも興味を持っていただければ幸いです。

「返信書簡⑤」藤江昌嗣さん

高遠の人物史有り難うございます。何れも大変興味深いですね。

保科正之は会津藩との縁があることは少し知っていたのですが、浦和との縁もあったのは驚きです。思わず唖ってしまいました。何処のお寺だったのでしょか？たしか、高野長英も川口か浦和に縁があったことを思い起こしました。

会津の高遠そばも味わってみたいですね。会津の山奥（平家の落人の流れがあるという場所もありましたが）にやはり立派な民家の蕎麦屋さんがあり、会津の方も蕎麦には詳しい、一家言あるなと思っていました。「大勢の人が会津に連れていかれたみたい」とのこと、なるほどと思いました。

「新宿御苑は高遠藩（内藤氏）の屋敷跡」というのも唖りました。

「桜便り⇔往復書簡」はまだまだ続いています。本日はここまで。皆さんありがとうございました。